

公約を守らず再稼働を容認した花角知事を許せますか?!

県民の意思を尊重する知事を選びましょう

「原発のない新潟県を子や孫に残しましょう」

安全性が懸念される中での営業運転開始に抗議し、中止を求めます

1月の再稼働以降も制御棒の不具合が続き、原因が未解明のものもあります。

また、漏電警報の作動は部品の破損によるものと判明。他の箇所でも同様に劣化が進んでいる所があるのではないかと懸念されます。重大事故が起きてからでは取り返しがつきません。原子炉を停止して原因究明や検査を徹底するよう求めます。

県作成のリーフレットは、安全性の強調が目的で、県民が抱いている原発の持つ危険性への具体的な不安や心配にこたえようとするものではありません

県は3,000万円超の税金をかけて、県内全世帯に配布するリーフレットを作成。昨年県が行った県民アンケートで「再稼働の条件は整っていない」とした人が6割を超えたことに対し、安全・防災対策への理解が不十分のせいだとして、再稼働への理解を推進することを目指したものです。

東電が行っている安全対策を、東電に代わって県民に宣伝して安心させようとしているかのようです。県民が不安に思っている東電の適格性や活断層の評価、核のゴミ等原発のもつ危険性にはふれていません。

県民のいのちとくらしに責任を負う県としてなすべきことは、事故につながるあらゆる危険性を洗い出し、徹底した安全対策を県民の先頭に立って求めていくことではないのでしょうか。

*「県民ネットワーク作成のリーフ」「長岡の会の漫画チラシ」を活用しながら、一人でも多くの人と原発を話題におしゃべりしましょう!

【新潟県知事選挙】

5月14日(木) 告示

5月31日(日) 投開票



14万人を超える県民の「再稼働の是非は県民投票で」の願いに背を向け原発再稼働させた花角知事を私たちは決して忘れない!

あらゆる面で国言いなりの政策が目立つ花角県政ですが、原発再稼働についても「国の規制基準に合格しているものを合理的な理由もなく止めることは難しい」と述べて再稼働を容認しました。

最初からその姿勢でいながら「原発再稼働の是非は県民に信を問う」と言い続けてきたのは県民を欺く見せかけに過ぎなかったということになります。

「県民に信を問う」とした花角知事に、この選挙で県民の答えを出しましょう!

「再稼働してしまったのもう終わり」ではありません。原発の管理・運営について県は原子炉停止要求や原発への立ち入り検査などの権限を持っていません。しっかりと権限を生かし県民の安全・安心なくらしを守る知事を選ぶチャンスです。

【4月のアオーレ前11日行動スピーチより】

(丸山さんの訴えの一部抜粋)

東京電力福島第一原子力発電所の事故から15年が経ちました。現地には放射能汚染水が入ったタンクが林立し、汚染土を入れた黒いバッグが山積みになっていきます。福島に生まれ福島をふるさととする人々の無念さを思うと、心が痛みます。柏崎刈羽原発の近くに住む私達もいつ同じ境遇になるかわかりません。恐ろしい事です。いつ大地震が来るか、いつミサイルが飛んで来るかわかりません。なぜ我々がこんな恐ろしい想いをしなければいけないのでしょうか。

柏崎刈羽原発の電気は新潟県民が使っている訳ではありません。送電線の鉄塔を何千本も立てて関東に送っています。途中で失う送電ロスや送電設備の維持管理費等莫大な経費を掛けても福島や新潟に作った訳は、非常に危険だからに他なりません。その中で私達は生活しています。発送電を完全に分離して、発電は再生可能エネルギーを増やした方がよいと思いますが、皆さんどう思いますか。

5月には県知事選挙が有ります。県民の意思を選挙で示しましょう。

5月のアオーレ前宣伝行動は 5月11日(月) 16時~16時30分 ぜひご参加を!

原発ゼロ長岡市民ネットニュース
第168号 2026年4月20日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15
電話・FAX 0258-24-2870

ホームページ

